



## 精神科病院で身体をみること



山形県立こころの医療センター  
精神科認定看護師  
板垣健

日本は2007年に、総人口のうち65歳以上の占める割合が21.5%となり、超高齢社会となりました。2014年の患者調査によると、精神病院に入院している患者数は28万9000人で、そのうち65歳以上の割合は54%だそうです。入院患者さんの半数以上が高齢者ということになります。また、日精看の調査では3人に1人が何らかの身体疾患を有していることが明らかになっています。

以上のような理由で、10年ほど前から精神科病院における身体合併症の問題があげられるようになりました。しかし、このようなニーズの増大にも関わらず、なかなか一般病院では受け皿がないのが現状です。つまり、私たち精神科領域に関わる看護師にとって、身体合併症ケアの知識は必要不可欠と言えるのではないのでしょうか。

2015年に精神科認定看護師(精神科身体合併症領域)を取得してから、少しずつフィジカルアセスメントの研修会を院内で行ってきました。そして先日(2017.11.9)、日精看主催でフィジカルアセスメントの研修会を行いました。まず、会場に集まって頂いた方の人数の多さに驚きました。精神科に関わる看護師が、身体をみることに必要性を感じ学びたいと思っていることの表れだと思います。

アンケートからも、「自信を持って他のスタッフにも指導できそう」「五感で学ぶことができ印象にも残った」「とても興味深く楽しく勉強することができた」など沢山のご意見を頂き、終わってみれば、私自身が皆様からモチベーションを上げて頂く結果となりました。「これって誰のための研修会?」と思いながらも、皆様に少しでも臨床で



活かしてもらえれば、大変うれしいと思います。

ちなみに、当院ではこのような認定看護師公開研修会を毎週木曜日17:30から行っております。特に申し込み等は必要ないので、気軽にご参加ください。

(予定表はこころの医療センターホームページ→看護部からのお知らせを参照)

